

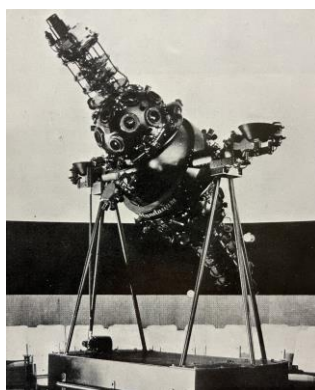
天文 11

「プラネタリウムの歩みとオリジナル番組」

天文担当 片野田 裕亮

当館のプラネタリウム室は、設置されて 59 年目の九州で最も歴史ある施設です。また、プラネタリウム番組を自主制作している、数少ない施設となっています。今回は、当館プラネタリウムの歩みとオリジナル番組について紹介します。

■ M-1 時代（開室 ～ 1980 年）



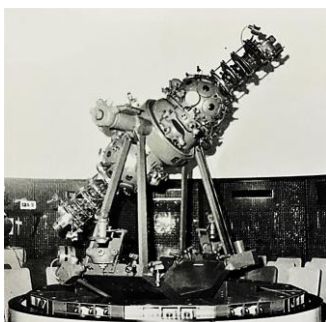
M-1

当館のプラネタリウム室は、1966 年 11 月に開館した鹿児島県文化センター内の科学館に設置されました。最初に導入された投影機は、株式会社五藤光学研究所が開発した、国産初のレンズ投映式プラネ

タリウム「M-1」でした。この投影機は、10m ドームに約 4500 個の恒星や太陽、惑星、月などのさまざまな天体を投影することができました。

M-1 時代の投影は、解説員が投影機を手動で操作し、日の入りから日の出までの空を演出しながら、その月に見られる星空についての解説や天文に関する話題、星座神話物語の紹介などを行っていました。

■ GX-A T 時代（1980 年～現在）



GX-A T

1980 年 3 月に、M-1 から GX-A T（五藤光学研究所製）へと機種変更を行いました。投影できる恒星の数は、6500 個となり、肉眼で見える星空により近い投影ができるようになりました。

この機種の導入により、これまで手動で行ってきた演出を、プログラムを組み、コンピュータによって制御することで、自動で演出することができるようになりました。

その後、1981 年の科学館閉館にともない、プラネタリウム室の管理・運営は、鹿児島県立博物館へと引き継がれました。GX-A T は、設置されて今年で 45 年目となりますが、現在も美しい星空を投影し続けています。

■ オリジナルの番組制作



当館では、「夢とロマンの星空散歩」と題して季節毎に年 4 回、オリジナル番組を制作しています。内容としては、各季節に代表される星座や天体を紹介

する「星空案内」、星や星座にまつわる物語をアニメーション化して紹介する「創作星物語」、天文現象や宇宙開発などに関する詳しい内容を紹介する「特集」の三部構成となっています。

■ オリジナル番組の特徴



星空案内や星物語の中で星座や天体についてだけではなく、郷土の星にまつわる伝承文化（逸話や方言、行事）についても紹介しています。これらを紹介することで、天体や宇宙を身近に感じ、興味をもってもらうとともに、郷土の貴重な伝承文化を後世に伝え残していく事も目的として、番組制作を行っています。

今後も番組をとおして、天文分野や宇宙の魅力を伝えるだけでなく、「郷土に根差した番組」を制作し、郷土の伝承文化を発信していきます。